

山城小だより



<学校だより>

H27. 11. 17

校長：長谷川 彰

☆学校教育目標

「やさしく かしく たくましく」

- 自ら学び深く考える子ども
- 心美しい思いやりのある子ども
- 明るく健康でたくましい子ども

□本校の学力・学習状況をお知らせします。

本年度の全国学力・学習状況調査は4月21日（火）に全国の小中学校で実施されました。本校では当日6年生174名が参加しました。

調査内容は、大きく次のようになっています。

①教科に関する問題（国語・算数・理科）

A：主として【知識】に関する問題

B：主として【活用】に関する問題

※理科はAとBの区別はありません。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・個人の意識に関すること
- ・生活習慣に関すること
- ・家庭学習に関すること
- ・学習に対する関心、意欲、態度に関することなどです。

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。調査結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、今後の学習への取り組み方についても共有していきたいと考えております。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、個別懇談等を利用して個人票をもとに、具体的課題等について説明していく予定です。



分析結果の概要

1 本校の課題

①教科に関する問題

本校の調査結果については、国語A問題は全国平均とほぼ同等であるという結果でしたが、国語B問題、算数A・B問題、理科とも全国平均をやや下回るという結果となり、課題があると思われます。

※全国平均正答率の±5%の範囲内にある場合はほぼ同等と判断します。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

全国に比べ評価の高い結果が出た内容は、「朝食を毎日食べている。同じ時刻に起きている。同じ時刻に寝ている。」などです。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」も全国と比べて高い割合になっています。全国と比べて課題として出てきた内容は、「テレビやゲームを見る時間が長い。」「一日の勉強時間が少ない。」「家で学校の授業の復習をしない。」などで、家庭学習の習慣化や取組が進められていないことが明らかになりました。

[参考] 教科別平均正答率（全国・山梨県）

	国語A正答率	国語B正答率	算数A正答率	算数B正答率	理科正答率
全国平均	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
県平均	68.5	64.8	74.1	41.9	60.4

2 教科ごとの主な改善点（授業や家庭学習の中に取り入れていくこと）

国語 A 主として「知識」に関する問題

- ・ 新出漢字を丁寧に書いて覚えたり，既習の漢字を意図的に復習したりすることができるように計画的に指導します。また，文や文章の中で適切に使うことができるように指導します。
- ・ 漢字を習得し語彙を広げるために，必要なときにはいつでも国語辞典等が手元にあり，日常的に利用して調べられるような言語環境をつくります。
- ・ 文や文章を理解したり，表現したりするときに，主語と述語との照応関係を意識できるように指導します。日常から主語と述語とを区別して取り出す活動を取り入れていきます。伝えたいことを相手にわかりやすく説明するためには，伝えたいことの内容を明確にし，その内容にあった具体的な事例を挙げるように指導をします。「例えば～」「例を挙げると～」などの表現を例示して，わかりやすい説明のしかたを指導します。
- ・ 新聞のコラムを集めて読み，どのような話題が取り上げられているのか，それに対して筆者がどのような考えをもっているのかを比べ読みするよう指導します。その際，様々な表現の工夫に着目させます。
- ・ 「物語文」では，登場人物の相互関係を構造的に捉えるために，物語の中の様々な描写から，一人一人の登場人物の行動や性格，場面の展開に即して変化する心情を捉えることができるように指導します。
- ・ 書かれている情報を的確に捉えるために，目的に応じた効果的な読み方を身につけることができるように指導します。案内募集やポスターなどの文章や資料から，全体の構成や見出しなどに着目し，文章や資料全体の書き方の特徴を捉えた上で，必要な情報は何かを考えながら読み進めることができるように指導します。

国語 B 主として「活用」に関する問題

- ・ 目的に応じ，中心となる語や文を捉えられるようにしたり，段落の役割を理解し，段落相互の関係を捉えることができるようにします。
 - 指示語や接続語，文末表現に注意させ，文と文との意味のつながりを理解させます。
 - 繰り返し使われている語や中心となる言葉に着目して内容を整理させます。
- ・ 目的に応じ，要旨を捉えられるようにするために，文章に書かれている話題，理由や根拠になっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などに着目できるよう指導します。
- ・ 文学的な文章において，場面や登場人物の気持ちの変化を捉えられるよう指導します。「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どう思ったか」などを中心に物語のあらすじをまとめ，場面の移り変わりを捉えることができるように指導します。また，繰り返し音読をさせることで，登場人物の気持ちの変化を捉えさせるよう指導します。
- ・ キャリア教育，総合的な学習の時間，もしくは他教科との関連等を図りながら，国語の授業で学習したことを生活の中で活用する場面を設けていきます。
- ・ 取材や構想等の力をつけるよう，短文や短い文章，レポートを書く等の活動の中で，技能を向上させていきます。

算数 A 主として「知識」に関する問題

- ・ 授業内容や基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ります。繰り返し学習や個別指導など実態に応じて取り入れていきます。「分かった」「できるようになった」という実感を持たせることで，学習意欲を向上させ，より確実な学力の向上を図ります。
- ・ 計算の結果の見積りについては，実際に計算や見積りをする場を適宜位置づけ，計算の仕方や結果について振り返って判断できるように指導します。また，加法と減法，乗法と除法の相互関係やそれらが成り立つ性質を理解させたり，確かめの処理を加法と減法，乗法と除法の相互関係から振り返る活動を位置づけたりします。また，小数の仕組みと数の相対的な大きさの理解については，小数を整数に置き換えることで，小数の計算は，整数と同じ原理，手順で計算できることを確認させたり，計算の方法を振り返らせたりして定着を図ります。
- ・ 異分母の分数の加法や減法の指導では，なぜ分母をそろえるのかといった通分の意味を理解して確実に計算できるようにします。また，除数が整数である場合の分数の除法については，これまで

の整数の除法と同じ考え方で説明できることを確実に理解するように指導します。

- ・ 角の大きさについては、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ります。
- ・ 図形の性質に基づいて、図形を描いたり図形の性質を理解する際に、児童がねらいをもって活動し、明らかになったことをまとめたり確かめたりするように指導します。
- ・ 見取図の指導では、立体図形の辺の数や対応する辺や面を調べたり、実物や展開図と対応させながら理解を深めさせたりします。展開図の指導では、辺や面の位置関係について理解を深めさせます。いずれも、見取図や展開図に表す活動とともに、見取図や展開図を書く活動を取り入れて指導します。
- ・ 表やグラフについては、それぞれの特徴を理解し、それらに示されている内容を的確に読み取ることができるように指導します。
- ・ 数量関係の指導では、式に表したり式を読み取ったりして、式のよさが分かるようにするとともに、式を適切に用いることができるようにします。一つの数量を表すのに（ ）を用いることや乗法、除法を用いて表された式が一つの数量を表したりすることを確実に理解できるようにします。

算 数 B 主として「活用」に関する問題

<既習の学習内容や考え方と日常生活の事象の解決を関連付けることについて>

- ・ 図形の約束や性質を基に日常の事象を解決する活動を通して、日常生活と図形の関連について関心が高まるよう指導します。日常の事象と図形のきまりや性質を関連づけながら考えたり、説明したりする活動を設けていきます。
- ・ 日常生活の事象の解決に、単位量当たりの大きさを活用して、合理的な判断と能率的な処理ができるようにします。そのために、どの方法がより効果的か話し合う場を設けるなどし、その良さを実感できるように指導します。
- ・ 日常生活においては、20%増量、30%値引きなど、割合が様々な場面に用いられています。その意味を理解するためには、基準量と比較量、割合の関係を的確に捉えることを指導します。
- ・ 日常生活の事象を図形と関連づけて考えることができるようにします。図形の学習においては、日常生活の中に図形を見いだしたり、問題の解決に必要な図形のきまりや性質を基に日常生活の事象を見直したりする活動を取り入れます。
- ・ 日常生活の事象と関連づけて、「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」のそれぞれの意味と処理の仕方についての確実な定着を図ります。

<振り返りの場・考えを説明しあう場・既習の活用の仕方を確認する場などの場の設定について>

- ・ 考えを批判的に考察し、考えの合理性を評価するとともに、それを基に考えを表現し直すことができるようにします。たとえば、考えが誤りやすい場面を取り上げた際に、自分の考えを振り返るように促すなど、考えを批判的に考察する機会を設けていきます。
- ・ 図形の性質を基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるようにします。話し手の児童の説明が筋道の立った説明になっているかどうかを判断し、必要に応じて話し手の児童に言い直すよう促したり、聞き手の児童に筋道の通った説明になっているかを意識して話を聞くように促したりする活動を設けていきます。
- ・ 学習したことをさらに発展させて新たな問題を設定し、場面や数値などの条件の異同を確認したり、問題の構造を比較したりするなどして、学習した考えをどのように活用していくかを確認する場を設けていきます。

理 科

- ・ 目的意識や見通しを持って飼育や栽培をして、継続的な観察ができるようにします。
- ・ 対象や目的に応じて、観察や実験器具の適切な操作ができるようにします。
- ・ 要因を抽出して、条件を制御しながら実験が計画できるようにします。
- ・ 観察や実験のデータを分析し、根拠を示しながら自分の考えを記述できるようにします。
- ・ 観察や実験、ものづくりについて批判的に見直し、合理的な考えに改善できるようにします。
- ・ 観察・実験の記録を時間の経過と関係づけながら考察し分析することができるようにします。
- ・ 観察記録の整理をして、差異点や共通点について分析できるようにします。
- ・ 自然の性質や規則性を適用して、ものづくりをすることができるようにします。
- ・ 国語科をはじめ、すべての学習の場において、より一層言語活動の充実を図り、表現力を養っていきます。

- ・ 観察や実験への興味や関心が高まるよう、授業の工夫や教材教具の工夫を行うとともに、観察や実験が行い易いよう、理科室の整備や実験器具などの充実を図っていきます。

3 児童の生活習慣や家庭学習などについての改善点（質問紙調査結果から）

生活習慣について

- ・ 小さな目標を設定し、自分の決めたことを最後までやり遂げ、成就感や達成感を味わえる場面を多く設定していきます。
- ・ 漠然としたことや近い将来のことでもいいので、思い描く未来像のようなものが持てる機会をキャリア教育や道徳の中で取り上げていきます。
- ・ 授業の中でも「自分の考えや意見を発表する」場を更に工夫し設定し、発表したことや発言したことに関して自信を持たせたり、また挑戦したいと思うように声掛けや場の工夫を積極的に設定したりしていきます。少しでも自信や有用感を持つことができる場面を多く作っていきます。

家庭環境・家庭学習について

- ・ 学校での学習を定着させるために必要な宿題を児童の実態に応じて精選して出し、確実に実行させるようにします。また、宿題をしっかりと実行する習慣を身に付けさせるようにします。
- ・ 家庭学習の大切さを保護者とともに確認し、宿題を含めて家庭での学習方法について、話し合ったり、有効な方法を家庭に知らせたりする機会を設けます。

地域との関わりについて

- ・ 学校に行くのは楽しいと思っている児童が半数に満たないのは、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある児童が半数に満たないことと関連が強いと考えられます。学校が楽しいと思い、何かをやり遂げたという実感が持てる場面を積極的に作っていきます。
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加する児童が少ないという状況があります。本校は地域の方々の協力を得て様々な活動を行っていますが、積極的に地域の活動に参加する児童数は、全児童数からすると割合はまだまだ少ないです。これからは学校の活動と地域との関わりを意識的に教えていく場面を作っていくことも大切です。また、コミュニティスクールや学校応援団の取組を推進していくことで、地域社会との連携の意識を育て、地域活動への参加意識を育てていきます。
- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思える児童が県や全国の値と比べて低くなっていることから、意識の低さが顕著であることがみられ、大きな課題です。社会の中でよりよく生きたり、生き甲斐をもって生活したりという自己肯定感がやや低いと思われます。児童会活動や学年・学級活動、道徳等で、これらの課題解決に向け重点的に取り組んでいきます。

授業全般について

- ・ 到達目標を明確にした授業改善を図ります。
 - ⇒ 本時で到達すべき目標を明確にして授業に臨むことができるように指導します。課題提示や教材の工夫を行い、児童に本時の目標を確実に捉えさせ、課題解決の意欲を持たせる工夫を行います。
 - ⇒ 授業の最後に、自己の学びを振り返る時間を取り入れていきます。
- ・ 言語活動の充実を重視した授業改善を行います。
 - ⇒ 自分の考えを持つ時間の確保、伝え合い活動の充実・工夫を図った学習を展開し、学びの実感を持たせる指導を進めます。
 - ⇒ 自力解決において、自分の考えをさまざまな方法で記述し、伝え合い活動で友だちの考えからも学ぶ活動を取り入れます。
 - ⇒ 学習感想に取り組み、本時の学びを言語化させる指導を取り入れていきます。